施策評価シート （評価対象年度：令和元年度）

1. 基本的事項

① 施策名〔施策小〕	5 子育て支援事業の充実	② 施策番号	4305
③ まちづくりの方向〔政策(章)〕	2 みんなが健やかで、みんなが助け合うまち		
④ 基本施策〔施策大(節)〕	1 子どもと大人が夢や希望を持ち、ともに成長できるまちをめざします		
⑤ 基本的方向〔施策中〕	2 子育てしやすい環境の整備		
⑥ 担当部名	⑦ 担当課名		
健康福祉部	保育子育て支援課		

2. 施策の現状把握

[1] 施策の対象・意図

① 施策の対象(誰、何に対して施策を実施するのか)	12歳以下の子供が対象。 利用者と協力者双方の会員募集を行い、研修やペアリングなど援助活動を通して、子育ての援助が必要な方と子育ての援助を行いたい方を組織化し、育児に関する相互援助を行う。
② 意図(対象をどのような状態にしたいのか。何を狙っているのか)	女性の社会参加や核家族化による育児不安感や負担感が増大し、地域の子育て力の低下が見られる。そのため、就労と育児を両立させる環境を整え、地域での子育て支援機能を充実させる。
③ 環境(この施策を取り巻く状況はどのような状態なのか、また、国や府の動きはどのような状態、今後どのように変化していくと考えられるか)	仕事と子育ての両立を支援することで、育児に対する負担軽減が図られ、子どもが健やかに育つ環境が整備され、女性の社会進出が促進される。また、少子化の抑制にも繋がる。

[2] 施策指標及び推移

施策指標(成果指標)	単位	指標とした理由・考え方
① 12歳以下の子ども 計算式	人	就労する保護者等が仕事と子育てを両立できる環境づくりを行い、育児不安・負担を軽減する。
② 利用会員数 計算式	人	
③ 活動数 計算式	件	

指標名	単位	目標値	H29実績	H30実績	R1実績	R2見込	R3目標	備考
① 12歳以下の子ども	人	目標値						
		実績値	6,991	6,749	6,527	6,527	—	
		達成率						
② 利用会員数	人	目標値						H30年度は留守家庭児童会の利用時間が延長されたため活動数が減少したが、R1は利用回数の多い利用者が増加した。
		実績値	326	328	329	330	—	
		達成率						
③ 活動数	件	目標値						
		実績値	449	177	307	300	—	
		達成率						

[3] 施策を構成する事務事業

事務事業名	成果指標					総事業費(千円)			事務事業評価結果		重点化
	指標名	単位	H30実績	R1実績	R2見込	H30実績	R1実績	R2見込	総合評価	今後の方向性	
1 ファミリーサポートセンター事業	活動件数	件	177	307	300	6,208	6,087	6,532	B	イ b	○
2 地域子育て支援拠点事業	ひだまりルーム参加者数	人	6183	4669	3500	30,334	29,136	29,336	A	ア	
3											
4											
5											
6											
7											
8											
計	2					36,542	35,223	35,868			

3. 施策の評価

評価の視点	説明・コメント等
①本施策の意図すること(目的)は、上位施策(施策中)の達成にどのように貢献しますか。 (施策所管課等としての考えをお示ください。)	共働き家庭やひとり親家庭等、援助を必要と感じている家庭を対象に支援をしていくことは、社会進出への手助けとなるだけでなく、虐待予防につながる大切な事業である。
②本施策で設定した指標から何が読み取れますか。 (2[2]の表の数値の推移から分析できることをお示ください。)	少子化の流れもあり、若干の利用減が認められるも、女性の社会進出が進む中、子育てへの援助が必要だと感じている家庭は増加傾向にあり、利用会員の登録は年々微増ではあるが増加している。 今後も様々な子育て支援施策が充実していく中においても一定の需要はあると考えられる。
③本施策において市民、団体等との役割分担や市の関与は適切ですか。 (施策所管課等としての考え(理想と現実)をお示ください。)	行政が行う事業であると考えている。子どもを預けるシステムを作ることで、安心して就労できる環境が整えられる。
④施策を構成する事務事業は適正ですか。 (2[3]を踏まえ、施策目標に対し事務事業にずれはないか、数は適正かについて考えをお示ください。)	関係機関や保護者の意見をいただき、研修等への積極的な参加を促し、保育の質の向上に努めている。
⑤施策を構成する事務事業の中で重点化及び縮小化についてどのように考えますか。 (2[3]において、◎、○、▲とした理由をお示ください。)	核家族の増加、地域のつながりの希薄化等から仕事と子育ての両立が難しい子育て中の保護者・子どもへの支援が求められるようになってきており、今後も重点的に展開していく。

4. 一次評価(所管課評価)

一次評価	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる
	B	全国的には業務委託を行っているところもあるため、委託等について検討する。	B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある

5. 改革、改善案

即時的対応 (すぐに取り組む改善案)	制度利用をより円滑にするために登録会員の研修、制度の周知徹底を図る。
短期的対応 (1、2年のうちに取り組む改善案)	今後、会員数増加のために制度の周知を徹底する。
中長期的対応 (3~5年をめぐりに取り組む改善案)	他の自治体でも行われている業務委託について検討する余地はある。

6. 二次評価(行革・財産活用室評価)

二次評価	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる
	B	子育て支援への事業実施により施策達成に向けた取組が適切に実施されている。 現在の取組を継続するとともに、今後の事業展開の手法について外部化を含めた検討を進められたい。	B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある